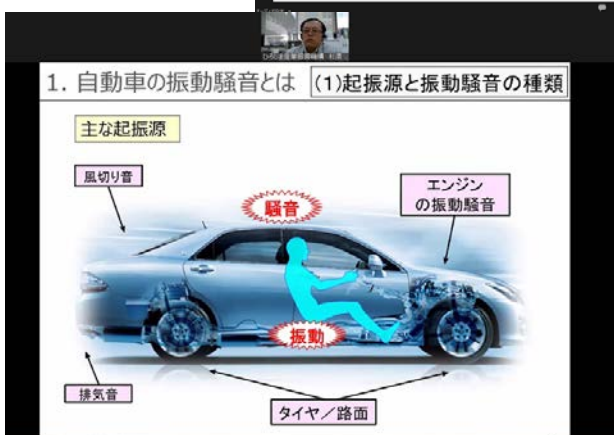
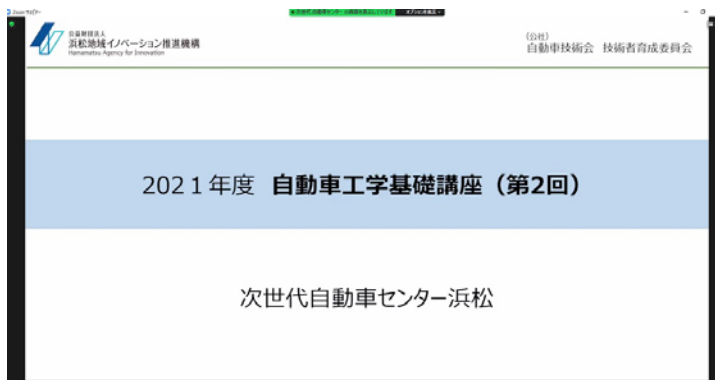
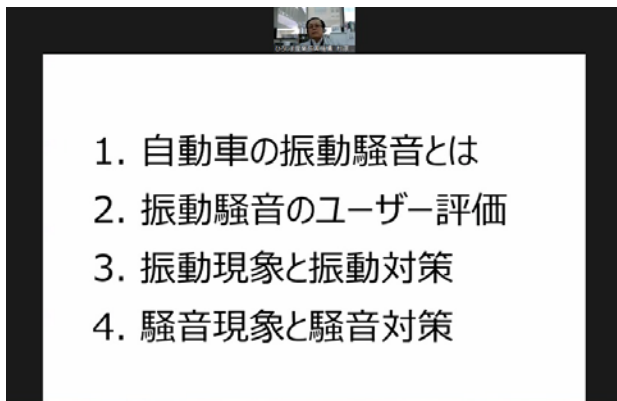


■ 第2回自動車工学基礎講座「振動騒音の基礎」Webセミナーの開催（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、昨年度に引き続き、部品製造の中小企業における中堅社員を対象として、できるだけ数式を使わず車両の性能と車両を構成する部品との関連性に注目した「自動車工学基礎講座」を企画しました。

今回は第2回として、振動騒音の基礎知識を習得することを目的に『振動騒音の基礎』について、（公財）ひろしま産業振興機構カーテクノロジー革新センター統括マネージャーの杉原毅氏を講師に迎え、Web出演にて下記のとおり実施しました。

- 日時：令和3年11月25日（木）13時30分～14時50分
- 場所：Web形式
- 参加者：43社/70名



【参加者の声】

- 吸音、遮音についてのセミナーは多々参加した事があるが、振動騒音について取り上げたセミナーは今回が初であったため非常に有益だった。
- 車両全体として総合性能から、各部品にどんな要求が出てくるのかが分かり、参考になった。
- 音に2つの物理量があるという知識が新たに得られ、振動と騒音の伝播経路の違いについて認識できた。
- 運動方程式に基づき、 $m \cdot c \cdot k$ に分けて対策するという考え方も参考になった。
- 基礎的な内容を図を交えて丁寧に講習して下さったので、わかりやすかった。また、実車での振動問題の種類やそれに対する対策の実例(重量、合成、減衰を変更する等)もあり、とても勉強になった。
- 車両設計の知識は無かった為、振動騒音現象の低減方法として共振をずらす事で伝搬を抑えている事がわかり参考になった。
- 振動騒音対策は電動化で今後要求度合いが高まると考えているので、日常業務で断片的に触れる内容が線で繋がった。
- 振動・騒音について、自動車部品とクルマ全体そしてドライバーとの関連性についての定性的な判断が高まった。
- 起振源と振動騒音の種類、振動騒音の計測評価方法、振動対策の防振、共振周波数の配置調整などが特に参考になった。
- 運転に対し快適な音はサウンド、不快な音はノイズとなり、その関係は表裏一体の様なもので各OEMがその音作りに苦勞しているという話は興味深かった。
- 音には音圧、粒子速度の2つの物理量があるということ。粒子速度について今まであまり着目していなかったため、これを機に理解を深めていきたい。
- 音に物理量が2つ存在する事を初めて知った。
- 今後、EV化が進む中でもただNVを低減させるだけでなくバランスを考えユーザーが求めるものを作る必要性が理解できた。